

4 大型研究

「クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーション ー経営品質科学に関する研究ー」

山下 洋 史

2007年度、明治大学商学部では、商学における新たな研究領域の開拓をめざした研究プロジェクト「クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーションー経営品質科学に関する研究ー」を立ち上げ、この研究プロジェクトは「オープンリサーチセンター整備事業」（以下「ORC」）として文部科学省より認定された。当該 ORC プロジェクトでは、駿河台キャンパス 猿楽町校舎 第3校舎 4階（11号館の建替え工事にともない、2010年8月に移転）の「経営品質科学研究所」を拠点に、40名以上のプロジェクト・メンバーが積極的な研究活動を展開している。

当該 ORC プロジェクトは、2002年度から2006年度の研究期間で行われた文部科学省 学術フロンティア推進事業「先端的グローバルビジネスと IT マネジメントー Global e-SCM に関する研究ー」を基にして発足した研究プロジェクトであり、この学術フロンティアのメンバーのほとんどが当該 ORC プロジェクトに参加している。上記の学術フロンティア研究プロジェクトでは、5年間の研究期間に多くの研究成果を生み出してきたが、こうした研究活動を、企業活動のグローバル化と情報化のシナジーという観点から進めていけばいくほど、経営のクオリティと人材育成の重要性を痛感するに至り、当該 ORC プロジェクトを立ち上げたのである。当該 ORC プロジェクトでは、こうした問題意識に基づき、文理・産学・製販のコラボレーションによる「経営品質科学」という新たな学問領域を開拓すべく、Q-ECM（Quality Oriented Education Chain Management；組織の壁を越えたコラボレーションによる教育の全体最適化）のコンセプトを提示し、図1に示すような研究組織で積極的な研究活動を展開している。これにより、経営品質科学の理論と体系の構築をめざしていくのである。

5年間の研究計画の4年目に当たる2010年度は、当該研究においてこれまで提案してきた（Q-ECM研究の基盤となる）コンセプトやモデル、フレームワークに基づき、多くの研究を積み重ねてきた。こうした2010年度の研究成果は40本以上の学術論文、50本以上の学会発表（国内・海外学会の両方）、1回の公開講座・1回の国内シンポジウムで公表されている。また、これらの論文・学会発表研究は、関連学会からも高く評価されており、その一例として3名の当該 ORC プロジェクト・メンバー（臧 巍、山下 洋史、松丸 正延）の共同研究「評価者相を持つメンバーシップ値のトランクイリティ」が日本経営システム学会第45回全国大会にて学生研究発表優秀賞を受賞している（受賞者は補助研究員の臧 巍）。

一方で、上記のような研究成果をタイムリーに学部教育および大学院教育に還元すべく、当該 ORC プロジェクトでは2010年度に学部間共通総合講座として、すでに開講済の3講座に加えて新たに特別テーマ研究科目5講座（半期2単位×5講座）を開講している。また、大学院では本学商学研究科と理工学研究科で各1科目、鳥取大学工学研究科で1科目を開講している。

さらに、当該研究プロジェクトの研究成果を社会に還元すべく、2011年3月8日に当該 ORC プロ

クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーション
 — 経営品質科学に関する研究 —



図1. オープンリサーチセンター「Q-ECM 研究」の概念図

ジェクト・メンバー5名（金子 勝一・西 剛広・鄭 年皓・村山 賢哉・臧 巍）による2010年度 ORC 国内シンポジウム「低エネルギーと高エントロピーにおける調和問題」と、当該研究所代表者の山下による2010年度 ORC 公開講座「生産計画の作成方法と課題」を経営品質科学研究所にて開催した。

以上の研究活動や学部間共通総合講座・シンポジウム・公開講座は、当該 ORC プロジェクトが商学・経営学・情報科学・経営工学にまたがる「経営品質科学」の構築をめざしているため、非常に幅広いテーマとなっている。このことは、文理融合型の学際的研究をめざした当該 ORC プロジェクトの研究領域の大きさを端的に示している。それと同時に、多様な専門分野で活躍するプロジェクト・メンバーの幅広い関心を表している。そこで、Q-ECM のマネジメント・コンセプトを中核に据えながらも、既存の学問領域に閉じた議論でなく、品質管理・コーポレートガバナンス・人材育成・マーケティング・財務管理・グローバルビジネス・経営戦略・ロジスティクス等の研究テーマを多面的に論じている。これにより、「クオリティ志向型人材育成」と「スマート・ビジネス・コラボレーション」の視点から企業活動の「全体最適化」を論じているのである。

当該 ORC プロジェクトの研究活動は、明治大学内外の多くの方々のご理解とご協力に支えられている。とりわけ、明治大学社会科学研究所・研究知財事務室と商学研究所の関係者の方々から多大なるご協力をいただいたことに対して、深く感謝の意を表したい。当該 ORC 研究が「経営品質科学」という新たな研究領域の扉を開け、商学・経営学・情報科学・経営工学の今後の発展に対して多少なりとも貢献するよう、最終年度の2011年度も積極的な研究活動を展開していく所存である。

以 上